

2017年4月3日

スカパーJSAT株式会社

### 2017年度入社式にあたり新入社員への社長訓示（要旨）

スカパーJSAT株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 執行役員社長 高田真治）は、本日4月3日、赤坂の本社会議室において2017年度入社式を行いました。13名の新入社員（男子10名、女子3名）に対し、次のように社長訓示を行いました。

入社、おめでとうございます。多くの選択肢のなかから当社で仕事をすることを決め、社会人としての第一歩を踏み出す皆さんを大歓迎します。

まず、入社初日のきょう、肝に銘じていただきたいことを話します。当社は衛星通信事業、放送事業といった非常に公共性の高い仕事をしています。よって、法令遵守はもとより、コンプライアンス関連ルールを守ることが第一です。もうひとつは、当社の先達たちが、リスクの大きい衛星を自ら調達して打上げ、新たな事業分野を切り拓いてきたチャレンジ精神を受け継いで、社会に役立つ斬新なサービスを創り出し続けることです。

昨年度は当社の歴史上、最も多い4機の衛星の打上げに成功しました。いずれも事業基盤を支える重要な任務を果たす衛星です。その中で、昨年末に打ち上げた東経110度CS、JCSAT-110Aの左旋円偏波を使って、A-PAB（放送サービス高度化推進協会）による4K試験放送が4月1日に当社の東京メディアセンターの設備を利用して始まりました。4K放送において、当社は常に先陣を切って取り組んできましたが、2018年末の110度BS/CS・4K8K本放送開始へ向けて受信機普及や受信環境整備など一層重要な役割を果たしていかなければなりません。

いまや映像伝送面で放送と通信の垣根がなくなりつつある中で、有料・無料の映像コンテンツ・ビジネスという広いフィールドにおける競争です。これまで私達が成功してきた手法がそのまま通用する環境ではなくなっています。その一方で、日本における有料コンテンツ市場は拡大し続けており、お客様への付加価値を高める新機軸を加えて再構築することで生き残って勝ち抜ければ自ずと成長を実現できます。

宇宙・衛星事業は、技術革新とともに事業領域が拡大しています。従来衛星に比べ格段に伝送能力をもつHTS衛星（ハイ・スループット・サテライト）2機の調達作業に入っており、グローバル・マーケットでの新たな需要に対応していきます。また、従来の静止衛星（GEO）をベースにしたビジネスだけでなく、低軌道・非静止衛星（LEO）分野の急成長が見込まれる中、インフラ系事業だけでなくIoTや画像・データの収集・リモートセンシングなど情報サービス分野における新規事業にも取り組んでいます。

皆さんの瑞々しい感性と、旺盛な好奇心・行動力は、わが社の成長への原動力になります。お客様の求めるものをしっかりと受け止めて、既存のサービスの充実、新しいサービスの提供に力を尽くしてください。スカパーJSATでの仕事を通じて、皆さん自身の成長も実現しつつ、心豊かな人生を送れることを期待しています。

以上